

国際交流センター 設立20周年記念式典開催

7月29日(日) 13時半から15時45分まで、町田市民フォーラム3階ホールにおいて、設立20周年記念式典が開催されました。1998年7月設立以来、地域に居住する日本人と外国人市民との友好親善の絆を深め、活力ある国際交流活動の機会を提供するとともに外国人支援の活動を続けています。国際化推進、町田市における国際相互理解と国際感覚豊かなまちづくり、地域の一員として市民だれもがお互いに支え合える環境を作るべく多文化共生社会の実現を目指しています。

第1部の記念式典では、市長をはじめとした来賓祝辞に続き、設立以来20年間ボランティア活動を行っている6名の方への感謝状贈呈が行われその熱意に敬意を表しました。第2部は記念演奏会として高橋里奈さんによるピアノ演奏を楽しみました。式典会場入口ホールでは、20年のあゆみの写真パネル展示が行われ、4階講習室においては、江戸千家石坂先生によるお呈茶も行われ多くの方がお茶のおいしさを楽しみました。

広報部会 大内 孝夫



ぼろんていえ

Volontiers! の由来：誘われたとき、頼まれたとき「喜んで！」と笑顔で応えるフランス語

町田国際交流センターではボランティアを中心に、日本にいる外国の方を支援したり、コミュニケーションの活性化をはかるなど、様々な活動を行っています。

国際交流事業やボランティアのお問い合わせは、町田国際交流センターまで (詳細▶7面)



KOKUSAI インタビュー

町田国際交流センター設立20周年を迎え、市職員の一人として設立に携わった山本一裕様にお話を伺いました。

Q 設立の経緯などおしえていただけますか？

町田市ではすでに活発に活動されていた市内のいろいろな国際関係団体に対して、市の国際交流基金からの補助金により支援していました。その頃、多摩市や相模原市、大和市、武蔵野市などでは行政が主導の国際交流関係団体ができはじめていました。町田市にも同様の団体を作ってはどうかという発意が市長からありました。そこで市役所に国際化推進係というセクションを設置し、市内外のいろいろな方のアドバイスなどを受けながら検討をはじめました。有識者懇談会から検討会、発起人会を立ち上げ、具体的な検討・準備がはじまり、当時の“町田国際協会”が設立となりました。

Q 設立当時の理念はどんなものだったのですか？

当初は姉妹都市などの親善はどうだろうというはなしでしたが、市内に住んでいる外国人の方たちとの交流を通してお互いの文化を知り合っていくという方向性で準備が進んでいました。しかし、初代の理事長である桜美林大学元理事長の大野一男先生から親善でもない、交流でもない外国人とつくる共生の社会という考えが示され、会の名称にも「交流」を入れませんでした。英語では、「association」ではなく「society」という理念でスタートしたわけです。

Q すばらしいですね。課題もあったことと思いますが。

そうですね。まずは既存の団体との関係性が課題でした。「町田日本語の会」や「まちだ地域国際交流協会」はすでに日本語支援の活動をされていたので、それらの団体とどのような連携をしていくべきか苦慮しました。市民の自主的な活動を圧迫することになるのではという懸念もありました。ただし、市がつくる団体ですので、一部の分野に特化するのではなく、交流や理解、協力などといった活動を総合的に展開していく団体でいくことでボランティア会員や賛助会員の募集を開始しました。

もう一つは運営方法ですね。武蔵野市や大和市のように事務局主体でプログラムを組み立てそれをボランティアが実施するというパターンと、町田市のようなボランティアによる部会からプログラム案を吸い上げ検討実施していくというパターンがありました。前者のほうが戦略的で体系的な事業運営が可能とは感じましたが、当時の事務局スタッフにはそこまでの人的また技術的な力が備わっていないということもあり部会方式で運営し、現在まで続いているという状況でしょう。

最後に、行政との関係性でした。各部会が自主的に考えたプログラムを展開するだけではなく、行政が地域の外国人等に対して行う施策を協会が補完するということも必要だと考えていたのですが、なかなか実現にはこぎつけませんでした。現在はかなり、市とこのセンターは協力関係にあると思いますが、今後も継続した課題だと思います。

Q そうですね。両輪がうまく噛み合っているといいですね。ところで、当時あった国際化推進係はどうしてなくなったのですか？

ウーン、このセンターができて、主体的に国際関係の事業が展開できる体制ができたとき当時の市が判断したからだと思います。また、文化・国際交流財団が設立され、協会がセンターとして一部門となった際に、更に市民が外国人とコミュニケーションを活発にしてもらうよう、「交流」という言葉の意味を見直して“町田国際交流センター”という名称としたと聞いています。現在は、文化・国際交流財団との関係は、文化振興課が担っているので、このセンターの窓口も文化振興課となっています。

Q 国際関係を専門的に取り扱う市の部署がないのは残念と感じます。これからのセンターに期待するところがありますか？

オリンピック・パラリンピックもあることですし、地域に住んでいる外国人を通じてPRすることが必要だと思います。いきなり、外国の方に町田市を直接アピールしても受け入れられるのは難しいでしょう。例えばSNSなどでこの地域に住む外国人の方に情報を提供し、そこから更に発信してもらうということもできますよね。あと、市も含めて他の団体との更なるネットワーク・連携を深めていくことでしょうか。

Q まだまだ、課題は沢山あって、20年の間に解決されたものも、そのまま継続して取り組んでいるものもあると思います。国際交流センターでは、事務局とボランティアとで協力して今一度課題を見つめ直し、センターの発展と市民と外国人との文化の交流に向けていきたいと思います。私の一番の印象は大野一男先生がおっしゃった「association」ではなく「society」ということばでした。設立当初の目的を改めて胸にして努力していきたいと思います。

今日は暑い中、貴重なお話を伺わせていただきました。
ありがとうございました。

こちらこそありがとうございました。20周年ということで、感慨深いものがあり、皆さまがここまでセンターの発展に尽力くださったことに感謝と敬意を表します。今後もさらに町田の国際化に貢献していただくとともに、センターがその存在意義を発揮されていくことを願っています。



設立当時から国際交流センターを支えていただいています。

第一回 南カフェ

7月8日(日)

市の南部、金森にある南市民センターで開催された「第一回南カフェ」への出展の機会を得て、私たち広報部会は国際交流センターの“のぼり”を掲げ参加してまいりました。当日は朝から焼けつくような暑さでしたが、涼しい室内での催しに近隣から数多くの来場者があり、国際交流センターのブースへも、様々な幅広い世代の方にお立ち寄りいただき、イベントは大盛況となりました。

今回は、国際交流センターのPR動画をバックに、すっかりお馴染みとなった「世界の民族衣装体験」、そして子どもたちを対象とした「作ってみよう！地球のモビール」の2つのイベントを行いました。地域のおまつりということもあり、ファミリー全員で一緒に体験していける場面も多く見受けられました。

インスタ映えまちがいなし！の民族衣装体験では、モデルさながらのポーズで写真を撮り合う姿に、モビール作りでは、苦労して完成させたモビールの眺める子どもたちのほじける笑顔に、私たちも猛暑を忘れるほどの元気をもらいました。

そして、アットホームな雰囲気の中で、来場者の方々に少しでも国際交流に興味をもってもらえたことが何より嬉しい一日となりました。

広報部会 岡村 眞理



◀活動 VTR
を上映

モビール作りを▶
行いました



留学生二人がホームステイに来た

今回は、桜美林大学に留学中の中国からの周さん、姜さんを迎えてのホームステイ。昼食は、メニューの多い豆腐料理は珍しいと思い、木立の中の専門店を選んで、期待以上に喜んでもらえました。偶然にも、誕生日であった周さんには箸のプレゼントと全員集合の写真サービスがあって、サプライズ。

午後は、自宅で妻の華道教室を体験し、二人共自分の成果をシャカシャカと激写。「華道の心得と花を飾る文化」を聞いてもらいましたが、二人の足がジンジンしなかったか心配でした。

翌日は、新装となった小田原城への登城体験―城郭建築と天守閣の展望デッキから後北条五代の歴史話を必修して貰いました。小田原は、やっぱり鮮魚料理。

時間をずらして、ゆっくりと両国の文化と生活習慣を話しました。

二人の日本語は上級クラスなので、質問は的確であり、こちらの言い方を替えたりする、会話疲れはほとんどありませんでした。お別れ会は、中国人店長がいる故郷の料理を4人で満腹。

初めて、二人の留学生を同室との条件で引き受けましたが、二人で母国語を使える時間の設定が上手く行ったように思え、こちらも安心しました。

次回もこのような楽しい二人の留学生とホストファミリー生活を期待します。

国際交流部会 小林 丈雄



生け花に挑戦しました



豆腐料理に大満足

ノースイースタン大学 留学生のホームビジット

毎年2泊3日で受け入れてきたボストンのノースイースタン大学留学生のホームステイは、今年、宿泊を伴わないホームビジットに変更されました。

7月28日、第一日目は、町田国際交流センターで留学生とホストファミリーの対面式を行いました。わが家にお招きしたのは、礼儀正しく、笑顔が素敵な神経科学専攻の2年生、Devin くんでした。

彼と事前にメールでやり取りし、ベジタリアンであることを知りました。ランチメニューは、彼の好みに合わせて、辛い野菜カレー、冷奴、枝豆にしました。

Devin くんは、積極的に日本語を話し、話題も豊富で、私達も良い刺激を受けました。

また、語学の勉強が好きで、中国語、韓国語、スペイン語もできるそうです。

日本の大学については、特に学食が安くて美味しい事に感激していました。

7月29日、二日目、留学生は、部会員により浴衣の着付けをしてもらい、茶道の先生や国際交流センター

会員による茶会の“おもてなし”を受けました。また、夕方、原町田4丁目町内会の“夏祭り”に参加し、かき氷を食べ、和太鼓に合わせて盆踊りを楽しみました。

台風12号の影響で、滞在時間が短くなってしまったのは残念でしたが、留学生、ホストファミリー、部会員、それぞれ心が通う交流を行う事ができ、日本滞在の楽しい思い出の一つになってくれたら嬉しいです。

国際交流部会 福島



ノースイースタン大学の留学生と受け入れ家庭の皆様

原町田六丁目町内会 六生会 盆踊り

毎年恒例の納涼盆踊り大会に、今年は台湾、中国、キューバからの参加がありました。

台湾出身でご主人と坊やが一緒のMさんとキューバから観光で来日したSさんには、浴衣を着て頂きました。中国人留学生のHさんは、留學生活最後の記念に、前日に観光で初来日されたお母様と一緒に参加されました。時間の許す限り思う存分踊りまくり、地元の方々とも楽しく交流され、日本の暑い夜を、熱く大いに楽しんで頂くことができました。

国際交流部会 大麻 年征



会場は明るいうちから盛り上がりました



夏らしい浴衣が似合います

今回の賛助団体のご紹介は、常日頃から外国の方に、生活に必要な日本語のサポート活動をしています「町田日本語の会」です。



「町田日本語の会」は、外国人に日本語を教えるボランティア活動をしており、今年、創立25周年をむかえました。教える場所は、主に「町田市民フォーラム」と「せりがや会館」です。

現在、学習者は74名で、支援者は44名です。学習者は中国、ベトナム、タイ、アメリカから来た人たちが多いです。共通のテキストとして初級は「みんなの日本語」を使っていますし、中級も支援者によっては、「みんなの日本語」を使っています。それに、年に一回他の日本語を教えるボランティア団体と「日本語発表会」を行っており、今年も10月14日（日）に鶴川にある和光大学ポプリホールで行われます。

また、秋には学習者と支援者の懇親を深めるために、日帰りのバス旅行も計画されていて、学習者がとても楽しみにしています。

また、別に支援者自身のスキルアップのための勉強会を毎年おこなっています。

学習者は日本という外国に来て、日本語が理解できない、話せないために孤独に陥り、日本での滞在が苦痛になりかねません。そのため、できるだけ早く日本の文化や習慣に慣れ、日本語を習得できるよう手助けをするのが、我々の仕事だと思っています。実際の授業は、明るく前向きな雰囲気の中、楽しく行われています。

町田日本語の会 会長 中野 隆正



支援の様子



この日は交流会もありました

「第8回 JICA 青年海外協力隊・帰国隊員による最新情報報告会」

恒例のJICA報告会が6月30日（土）に開催されました。当日参加者はスタッフ合わせて75人とネパールに関心が高かったようです。昨年、2年間の活動を終え帰国された大野綾氏を講師にお招きして「あまり知らない、もっと知りたい国ネパール」についてお話頂きました。講演に入る前に司会者から事前情報としてJICAについて簡単な説明がありました。

- ①JICAは「独立行政法人 国際協力機構」の英語表示の頭文字。外務省のODA予算で活動。青年海外協力隊事業は同機構の最大事業。
- ②昭和40年協力隊第一号隊員が初めてラオスに派遣されて今年で53年。元隊員（OB・OG）の累計人数は53年間で43,748人（2018・3月末）。現在も77ヶ国で1,806人が活動中（2018・3月末）職種は46種。
- ③応募年齢は20～39歳、派遣期間は原則2年、派遣国はすべて開発途上国。
奇しくも講師がネパールに着任した一カ月後

（2015・4・25）に日本でも報道された様にマグニチュード7.8の大地震がネパールを襲い甚大な被害をもたらしました。講師は早速現地で避難所運営に携わることになりました。講師の派遣任務が土砂災害対策や灌漑用水設営などであったことが、期せずして大地震発生後の同国の復旧事業にも役立ちました。現在、連邦民主共和制をとるネパールは30以上の民族、50以上の言語、ヒンドゥー教と仏教が混在、地政学的には北は中国、南はインドに挟まれた状況の中、先進国の様にネット社会や便利さはなくても長い歴史の中で培われてきた生活様様は人々の日々の生活を通して見られる様に今でも、とても素朴、友好的で誰でも友達、家族にしようようなところがあるようです。まだまだ発展の余地を沢山残している国ネパール。同国の人々の日々の生活ぶりを見て先進社会が今後考えて行かなくてはならない「本当の幸福度とは」を考える良い機会になりました。

国際理解部会 下山



丁寧に質問に答える大野氏



会場は満員でした

編集後記

例年にない暑さの中、町田国際交流センター設立20周年記念式典も無事終了し、20周年記念誌も発行されました。これから新たな21年目が始まります。2020年のオリンピック・パラリンピック開催、外国人受け入れ体制の新たな取り組みなど、今後も日本・町田に住む外国の方が増えてくると思われます。いろいろな文化を理解しながらみんなが楽しく生活するために、センターにできる事、やらなければいけない事などを、今一度見直す機会になるかもわかりません。今年の夏は今までに経験したことのない災害も起こっています。外国の方への必要な情報伝達など、みんなで考えていくことを願っています。

生涯学習センター まちだ市民大学HATS「くらしに生きる法律」 元最高裁判所長官が語る「ひらかれた司法」

「法律や裁判なんて、私には関係ない。」と思っていませんか？基本的な裁判の仕組みを知っていますか？明日、あなたが裁判員に選ばれるかもしれません。その時どうしますか？社会の大きな変化に、司法がどのように対応しようとしているのか、などをわかりやすくお話します。

講 師 竹崎 博允 氏（元最高裁判所長官）

経歴：第17代最高裁判所長官（2008年～2014年）
を務めた。最高裁判所判事を経ずに、就任した
長官は48年ぶりの2例目となった。2008年
から現在まで法曹会会長を務めている。



日 時 9月20日（木）19:00～21:00（18:30開場）

会 場 生涯学習センター 7階 ホール

（町田市原町田6-8-1（レミィ町田（旧109MACHIDA）のあるビル））

対 象 どなたでも 定 員 108名（申込順） 費 用 無料

申 込 8月15日正午から町田市ホームページのイベント申込システム「イベシス」
での申込、または電話で8月下旬から
町田市イベントダイヤル（042-724-5656）へ。

問 い 合 わ せ

町田市生涯学習センター

〒194-0013 町田市原町田 6-8-1 TEL 042-728-0071 FAX 042-728-0073

休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）および年末年始（12月29日～1月3日）



ホームページをご覧ください！！

アドレス <http://www.machida-kokusai.jp>

新しい情報がいっぱい！！

町田国際交流センターのホームページでは、センターが主催する講演会や外国人向けの相談会のお知らせのほか最新の情報を提供しています。

また外国語版のページでは、「日本語教室」など、外国人の方々が地域で暮らすのに必要な情報を英語で提供しています。

今後も楽しいコンテンツづくりを目指していきます。是非、ご活用ください。

（一財）町田市文化・国際交流財団
町田国際交流センター

〒194-0013 東京都町田市原町田4-9-8 町田市民フォーラム4F
TEL 042(722)4260 FAX 042(722)5330

<http://www.machida-kokusai.jp>
E-mail: info@machida-kokusai.jp

事務局からのご案内・募集

秋祭りに参加しませんか 山車巡行！

町田天満宮秋季例大祭に原町田六生会の子ども山車で巡行に参加します。

- 日 時：9月23日(日) 13:00～15:00
- 対 象：外国人の親子(小学生以下の子どもと保護者)
- 定 員：30組 ■参 加 費：無料 ■集合場所：町田国際交流センター
- 集合時間：12:00～ ※受付時にハッピーとタスキを渡します。
- 申 込：住所、氏名、お子様の名前と年令・身長をお書きの上、電話、FAX、ハガキでお申込ください。9月21日(金)まで。
- お問合せ：(一財) 町田市文化・国際交流財団 町田国際交流センター
TEL：042-722-4260 FAX：042-722-5330



第21回 町田発国際ボランティア祭 2018 夢広場

夢広場は、国際交流・国際協力で活躍する学生サークルや市民グループ、NGOなどが参加し、異国雑貨の模擬店や民族芸能を紹介するステージを通して市民との交流と世界平和への願いを広げる場として開催しています。

是非、おこしく下さい。

- 日 時：11月3日(土・祝) 10:00～16:00
- 会 場：ぽっぽ町田
- 主 催：2018夢広場実行委員会
- お問合せ：(一財) 町田市文化・国際交流財団町田国際交流センター TEL 042-722-4260



「第17回 外国人学習者による 日本語発表会」

「まちだ地域国際交流協会」、「町田日本語の会」、「町田国際交流センター」で日本語を学んでいる外国人の方による日本語発表会を開催します。日本に来て驚いたことや楽しかったこと、自分の国と違うところなど色々な話を聞くことができます。ご家族で是非、お越しください。

- 日 時：10月14日(日) 13:00～15:30 (開場12:30)
- 会 場：和光大学ポプリホール鶴川
- 定 員：300名 (先着順)
- お申し込み：不要 参加費：無料 直接会場へお越しください。



国際理解・参加型ワークショップ

《見えない油／パーム油》って何 ～身近なものから世界を考える～

“パーム油”ってあまり聞いたことがないかもしれません。実は、とても身近な存在なのです。そのパーム油の生産国で起こっている問題を知り、自分たちの生活とのつながりを理解し、私たちに何ができるかを考えます。グループに分かれて写真を見たり、クイズやロールプレイ、ランク付けなどの活動をしったりしながら、一緒に楽しく学びませんか？今回は、認定NPO法人・開発教育協会の教材を使った、人気のワークショップです。是非、一度体験してみてください。

- 日 時：2018年10月21日(日) 14:00～16:00 (開場13:30)
- 会 場：町田市民フォーラム4階町田国際交流センター 講習室
- 参 加 費：無料 ■対 象：中学生以上全ての方
- 定 員：30名 ■申込期限：2018年10月18日(木)

講義ではなく、グループワークをしながら学んでいくワークショップです。
ご理解の上、皆さまのご参加お待ちしております！

- 主 催：一般財団法人 町田市文化・国際交流財団
町田国際交流センター (担当：国際理解部会)

- お申し込み：住所、氏名、電話番号と参加人数をご記入ください。

★はがき(宛先)：

194-0013 町田市原町田4-9-8町田市民フォーラム4階 町田国際交流センター宛

★FAX：042-722-5330

★ホームページから：町田国際交流センターホームページからお申し込みください。
www.machida-kokusai.jp

受付確認のお知らせはお送り致しません。直接会場へお越しください。